



南小だより

平成24年度

平成25年 3月 8日発行
妙高市立妙高高原南小学校

平成24年度学校評価について

先日、学校関係者評価委員会を開き、本年度の学校教育の概要及び学校評価結果について報告しました。委員の皆様からは、学力の向上や道徳的な態度の育成に関わって授業で大切にしてほしいことを始めとして、食物アレルギー等、現在いろいろと問題になっていることなど、多岐にわたるご意見をいただきました。今年度の学校の反省と共に、できる限り次年度の教育活動に生かしていきます。



重点目標-1 『学び続ける子』

○算数の学力がさらに向上しています。

○授業では、よく話し合ったり、発表したりしています。

△「宿題」+(プラス)「自主学習」の習慣が身に付いている児童はまだ少ない。



【評価】上回っている：A 概ね達成：B 達していない：C

①全国標準学力検査（NRT）の算数の偏差値が55以上→57.9（国語：56.2）

算数の単元テストの学級平均→H24：1学期88.5点・2学期89点

評価A

6年生全国学力・学習状況調査結果 全て全国平均を上回る

②授業でよく話し合ったり、発表したりするという児童85%以上→93.2%

評価A

③Web問題*で「期待される正答率」を下回らない→国語・算数共に達成

評価A

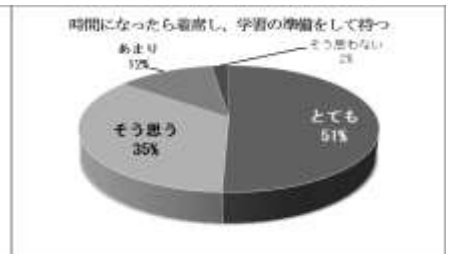
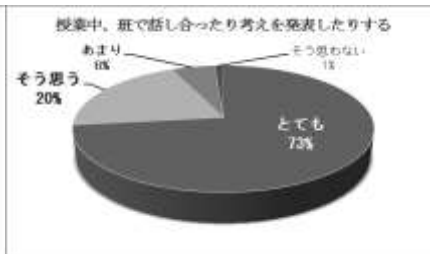
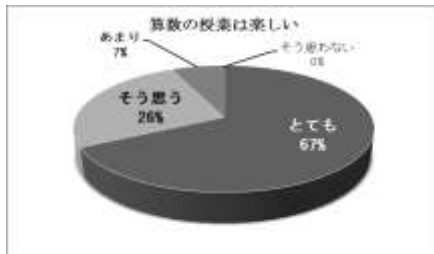
*県が授業改善のために毎月インターネット上で配信する学習診断問題 3年生以上国語と算数、各10点満点

④宿題以外の家庭学習に進んで取り組む児童80%以上→教員評価62.5%

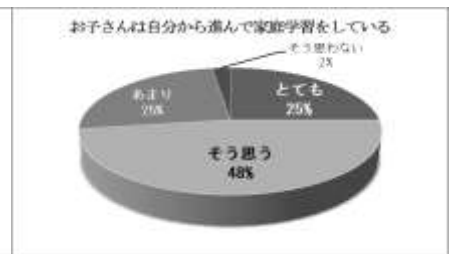
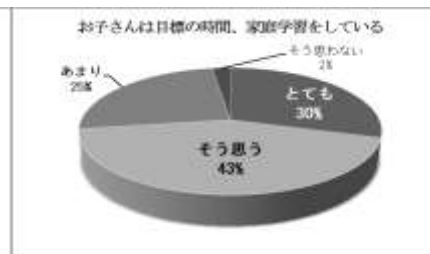
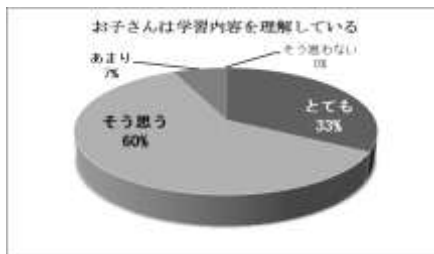
評価C

→保護者アンケート：家庭学習の工夫に関する肯定的評価 1学期62.2%→2学期77.2%

児童アンケート (1学期と比べ「とても」と答える児童が増加)



保護者アンケート (1学期と比べ「自分から家庭学習」の肯定的評価が6%向上)



- 話し合いや自分の考えを説明する場を多く設定し、主体的に学ぶ姿勢が身に付いてきました。
- 上越教育大学教職大学院学校支援プロジェクトと連携した「チャレンジタイム」では、発展問題に意欲的に取り組む姿が見られました。
- Web 問題の分析を授業に生かすことで、定着していない児童や内容が明確になりました。

- 学びの広場の実施回数は、215回（昼休み125回、放課後90回）となり、目標の200回を上回りました。（延べ利用者数1,343人）
- 分からないことをそのままにしたり、学習の必要性を実感できなかつたりする児童に対して、一人一人の躰きを把握し、理解するまで確実に指導します。

重点目標-2 『正義を貫く子』

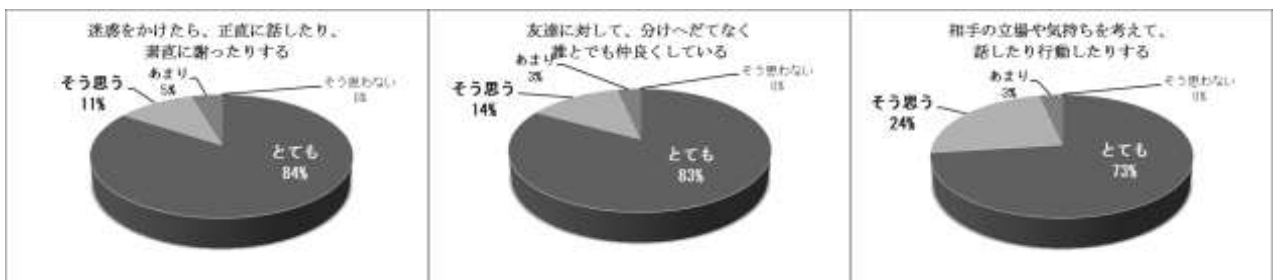
- 「心に残る道徳の授業」を実感した児童は、96%になりました。
- スキーやひまわりフェスティバルなどで、お世話になった方への感謝の気持ちを表すことができました。
- △悪いと思っても、周りの雰囲気によって、やってしまうことがあります。

徳育で目指す4観点を達成している児童数が、年度当初より5%以上向上→6.5% **評価A**

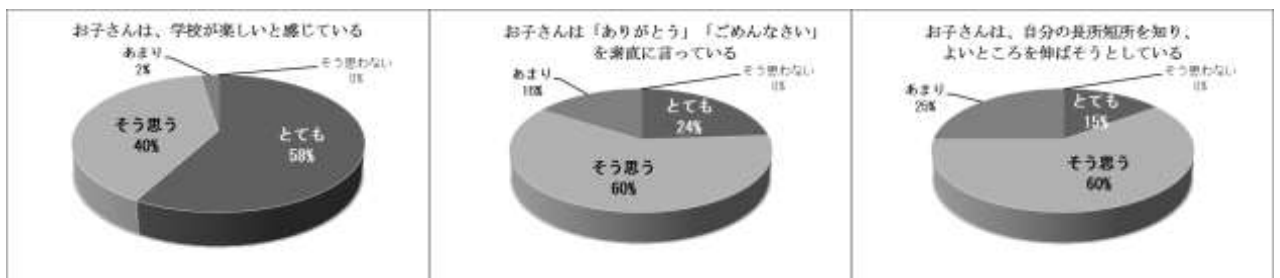
- <4観点>
- ①正しいと判断したことは勇気を持って行う。
 - ②「ありがとう」「ごめんね」を素直に言える。
 - ③自分の特徴に気づき、短所を改め、長所を伸ばす。
 - ④誰に対しても差別をしない。

- <結果>
- ①5月18%→7月末25%（9%↑）→12月末18%（±0）
 - ②5月18%→7月末26%（8%↑）→12月末26%（8%↑）
 - ③5月16%→7月末17%（1%↑）→12月末24%（8%↑）
 - ④5月18%→7月末25%（7%↑）→12月末28%（10%↑）

児童アンケート (「友達に対して分け隔てなく」は1学期と比べ「とても」と答える児童が12%増加)



保護者アンケート (1学期と比べ「良いところを伸ばそうとしている」の肯定的評価が18%向上)



■外部講師を活用した全校道徳や職員研修が、目指す4観点の評価の向上につながりました。
 ■生活目標や振り返りシートの工夫で、児童の自己理解が進み、自己伸張に関する保護者の肯

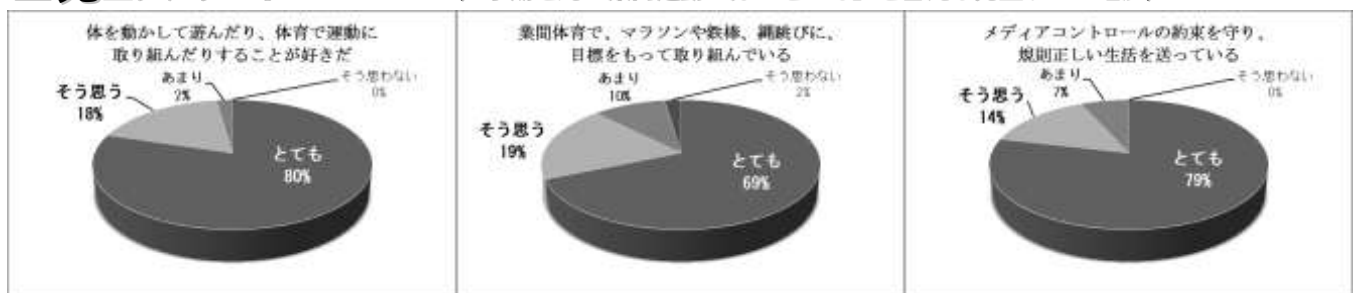
定的評価も2学期18%向上しました。
 ■いじめや動物愛護に対する児童の認識について、見取りが十分にできていない面がありました。校内の指導体制の見直しを行いました。

重点目標-3 『己を磨く子』

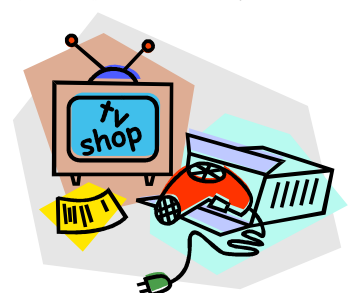
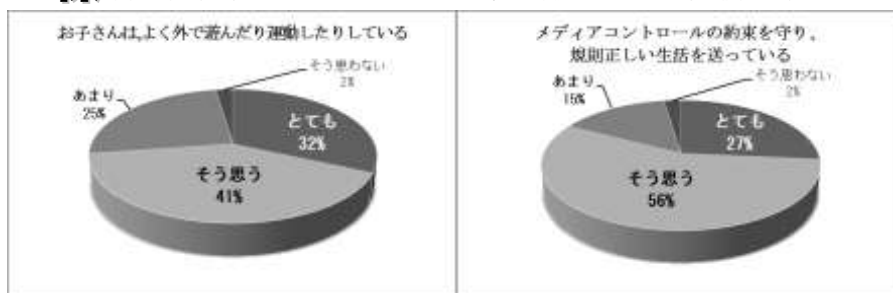
○メディアの約束(平日2時間・休日3時間以内)は、ほぼ守られています。
 ○合同体育を取り入れたことで、上学年と下学年に良い関係が見られ、運動の意欲が高まっています。
 △業間運動(マラソン・縄跳び・鉄棒)の取組に対する意欲の差が出てきています。

①体力テストの結果、全学年の80%以上がB判定を超える→ <u>78.3%</u> A判定(トキめき体力づくり認定証受賞者) <u>46人(50%)</u>	評価B
②運動に関して肯定的評価をする児童90%以上 <児童アンケート結果> ・体を動かして遊んだり、いろいろな運動をしたりするのが好きだ <u>(97.8%)</u> ↑ ・業間運動で、マラソンや鉄棒、なわとびに目標をもって取り組んでいる <u>(87.6%)</u> ↓ ・体育の授業で学習カードを活用して、できるようになる工夫をしている <u>(91.1%)</u> ↑	評価B
③メディアの約束(平日2時間・休日3時間以内)が毎月25日以上できる100% ・達成状況： <u>9月94% 10月98% 11月98%</u> ・中学校区のすこやか週間中、毎日達成した児童： <u>5月79% 9月87% 11月87%</u> ・メディアコントロールに関する保護者の肯定的評価： <u>1学期75.9%→2学期82.7%</u>	評価B

■児童アンケート■■■■■ (1学期と比べ業間運動では「とても」と答える児童が6%増加)



■保護者アンケート■■■■■ (1学期と比べ「メディアコントロール」の肯定的評価が7%向上)



■「すこやか週間」中のメディアコントロールは、中学校区の目標70%以上を達成しました。また、毎月集計結果を家庭に知らせることで、達成できない児童の解消につながりました。

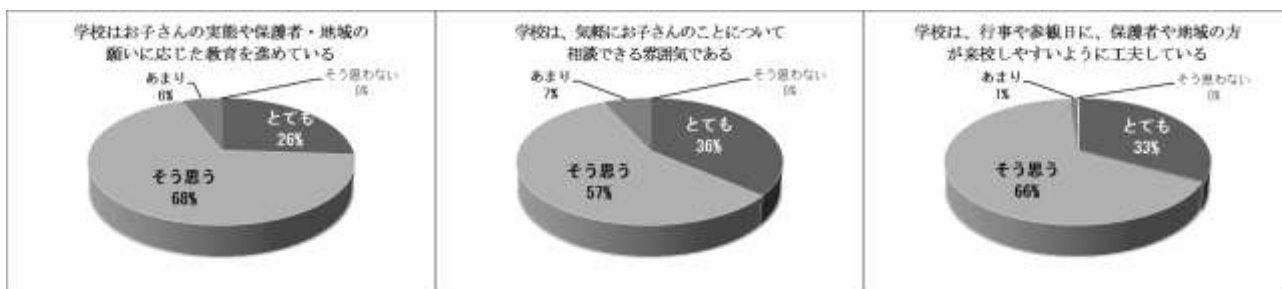
■各学年部がマラソン練習やボール運動、器械運動などを合同体育として行うことで効果的な

指導ができました。

■業間運動を工夫し、春は、陸上運動やボール運動、体力テストの種目練習。夏は、陸上運動やマラソン。秋は、コンビネーショントレーニング。冬は、なわとび。このように時期に合わせた運動を取り入れ、児童の意欲を高めます。

地域と共に歩む学校づくり

■保護者アンケート■■■■■（1学期同様、肯定的評価が全て90%以上）



① 保護者・地域との連携

<創立140周年記念事業>

- ・記念大運動会を始め、全ての記念事業に対して、地域や保護者の方から全面的にご協力をいただき、遊具や花壇、ステージ等の学校環境を整えていただきました。また、記念式典・学習発表会には、多くの方から来校していただき、地域と共に学校の創立140周年を祝うことができました。



<地域の人材活用>

- ・子縁人材コーディネーターを活用して、自然散策、読み聞かせ、水泳指導、金管クラブ指導、スキー指導、学びの広場の学習指導等たくさんのボランティアを積極的に活用しました。
- ・生活科や総合的な学習、課外活動等でお世話になった方や保護者の方を児童会行事「ひまわりフェスティバル」に招待して、一緒にイベントに参加していただくことで感謝の気持ちを伝えました。

② 中学校区 こども園・小中学校の連携

<学力の向上に向けて>

- ・上越教育事務所的一般訪問に合わせ、7月に小学校2校で共同参観授業を実施しました。また、11月はこども園と中学校が公開しました。指導力向上に向けた有意義な機会となりました。
- ・県のWeb問題で、前年度を上回ることを中学校区の共通目標にして取り組み、どの学校でも成果を上げることができました。



<社会性の育成（人間関係づくり）に向けて>

- ・小学校5・6年生と中学校1年生が交流する「絆」づくり集会を妙高高原中学校を会場に、11月に実施しました。本年度は、今問題になっている「ネットモラル講演会」と合わせて実施し、児童・生徒の規範意識を高めることができました。

<メディアコントロールについて>

- ・メディアコントロール強調週間を中学校区で、実施時期をそろえ年3回実施しました。どの学校も小・中学校の共通目標（平日2時間休日3時間以内）の達成率70%を上回るすることができました。